

平成 21 年度 多自然川づくりの取組事例

平成 21 年度多自然川づくり中国ブロック会議において、各機関より下記の多自然川づくりの取組事例について報告がありました。

機 関 名	取 組 事 例
	概 要
鳥取県 けんとうせいびぶかせんか 県土整備部 河川課	<p>私都川における多自然川づくり</p> <p>現況の瀬や淵を残した環境保全に関する河道横断計画の見直しについて</p> <p>私都川は流下能力向上対策として、河道の拡幅、河床掘削及び築堤により河道断面積の拡大を図る計画である。河川改修は完成形とせず暫定断面により河道の整備を行う。</p> <p>整備に当たっては、山付部の管理道を見直し、築堤先行して河道掘削を極力控え、河床掘削時には現況河床や高水敷を残すなど、既存の瀬や淵を保全し動植物の生息生育空間や良好な河川環境の保全に努める。</p>
国土交通省 おおた がわ かせん 太田 川 河川 じむしょ 事務所	<p>床上浸水対策特別緊急事業箇所における河道掘削検討</p> <p>太田川水系では、平成 17 年 9 月の台風 14 号により短期集中的な降雨が発生し、中上流域では河川の増水に伴い床上浸水 284 棟が発生し、「床上浸水対策特別緊急事業」により築堤、平成 17 年 9 月洪水水位が計画高水位を超過する場合は計画高水位 以下に収まるよう河床掘削を行い、浸水被害解消を図っている。</p> <p>この河床掘削については大規模掘削箇所もあることから、環境アドバイザーの島谷 教授等に河床変動、植生遷移に配慮し、かつ河川環境(魚類の生息)を保全する効果的 な整備手法の指導を現地視察を交えて受けた。</p>
岡山県 とぶくせいぶかせんか 土木部 河川課	<p>河川整備のランドデザイン</p> <p>小野田川は岡山県西部の赤磐市に位置し、赤磐市徳富付近で吉井川に合流する一級河川である。</p> <p>平成元年から事業が始まり、現在約 80%が完成している。H2 年の「多自然川づくり」H9 の「河川法改正」等により、多自然川づくりの考えが急速に広まり、小野田川においても、環境に配慮した施工が実施された。しかし、様々な種類・勾配の護岸が用いられる等、結果的に河川全体の構想としては、課題が残るものとなった。今回はその河川整備のランドデザインについて小野田川を現状評価するものである。</p>
国土交通省 おかもかせんじむしょ 岡山 河川 事務所	<p>シート系の護岸工法について</p> <p>高梁川の堤防強化工事において、護岸工法として新技術である「グリットシーバー」工法を採用している。</p> <p>「グリットシーバー」工法とは、流速対応型護岸工法で、野芝を特殊なジオテキスタイルネットに絡ませた野芝マット法覆材を護岸のり面に敷設して緑化する工法である。(対流速 4.0m/s)</p> <p>法覆工の選定においては、工事必要区間の代表流速が 3.5m/s 程度で張芝等の植生系は不適であるため、その他の環境に対する特性を兼ね備えているシート系やコンクリート系の工法と比較した結果、経済性、環境に対する特性、施工性に優れている本工法を採用した。</p>
広島県土木局 とぶくせいぶかせんか 土木 整備部 河川課	<p>国兼川の多自然川づくりについて</p> <p>国兼川では、平成 19 年度の多自然川づくり緊急総点検において、河道形式が単調、また、河床が平坦で水生生物の生息環境に配慮されていないなどの課題が抽出された。</p> <p>この結果を踏まえ、平成 19 年度に改善策の検討を行い、平成 20 年度から検討結果に基づいた工事実施をしている。</p> <p>一部区間の工事完成から約半年経過したため、改修前の状況と比較して現在の滞筋の様子など、この見直しがどのような変化をもたらしたのか紹介するとともに、今年度行った補助事業計画の見直しの検討状況を紹介する。</p>
島根県	<p>神戸川の「アドバイザー制度を活用」した事例について</p>

<p>とほくぶかせんか 土木部 河川課</p>	<p>平成18年7月16日から19日にかけて梅雨前線により集中豪雨となり、神戸川の中流部において水位が上昇し、堤防を越水し、甚大な浸水被害が発生した。</p> <p>このため再度災害防止の改修計画立案にあたり、アドバイザー制度を活用した。</p> <p>アドバイザーの提言を受け、下記の方針で整備を進めている。</p> <p>【護岸】 ・現在の河川景観を保全 ・最小限の護岸設置</p> <p>【掘削】 ・砂レキ河原が残るように平水位以上の掘削 ・水防林をできるだけ保存 ・既存の低水路を保全</p> <p>完成した箇所は、瀬や淵も保全とみお筋の水深が概ね確保でき、設計当時の目標は達成されていると思われる。景観の保全に関しては、早期に植生が回復した。</p>
<p>国土交通省 いずもかせんじむしよ 出雲 河川 事務所</p>	<p>植生基盤整備における整備効果について</p> <p>宍道湖では植生基盤（浅場）の整備を進めており、工事実施後からモニタリング調査を実施し、その効果について検証している。</p> <p>今回、H17・H18年度に施工した鹿園寺地区、秋鹿地区を例に、その効果について報告する。</p> <p>また、鹿園寺地区においては、消波工の向きやヨシの植栽方法・位置などを変えて施工しており、その違いによる効果についても合わせて報告する。</p>
<p>山口県 とほくけんちくぶかせんか 土木 建築部 河川課</p>	<p>山口県の河川整備後の現状評価について</p> <p>山口市の中心部を流れる一の坂川は、ホテルに配慮した河川改修を実施した、全国でも先進的な事例の河川である。ホテルの再生と周辺景観への配慮を目指し改修を進めてきた結果、多くの市民の憩いの場として親しまれている。</p> <p>山陽小野田市を流れる厚狭川は、既設魚道の側壁を撤去して、魚道の遡上能力の向上を図った事例である。竣工後にはアユやモズクガニなどが遡上している様子が関係者らによって確認されている。また今年度中に魚道の効果を定量的に評価するため、生物の遡上調査を実施する予定である。</p>
<p>国土交通省 ひのがわかせん 日野川 河川 事務所</p>	<p>車尾（くずも）地区の魚道設置について</p> <p>日野川 2k500 付近に位置する車尾（くずも）堰は、昭和55年に設置され、中央部及び右岸側に魚道が設置されているが、小型の魚が遡上するには困難な施設となっていることから、小型の魚が遡上出来る魚道の設置を地元漁協より長年要望され、平成19・20年にかけて維持工事で設置した。</p> <p>設置にあたっては「たかはし河川生物調査事務所」の監修を受け、水を溜める階段部を河川内の玉石で作成するなど、形状・景観に配慮したものとした。</p>